

巻頭言

地域看護学のさらなる発展
——活力ある学術コミュニティへの道——

河野あゆみ

大阪公立大学看護学部地域包括ケア科学分野

日本地域看護学会誌, 28 (2) : 3, 2025

2025～2026年度、2年間の新しい理事体制が始まり、私は今期の理事長に就任することとなった。大変光栄に思うと同時に、学会の方向性を舵取りする大役を拝命したことに身の引き締まる思いである。

日本地域看護学会は、1997年10月に発足し、やがて30年目を迎える学会である。50以上ある看護系学会のなかでも歴史ある学会といえる。私自身も教育研究者としての仕事を務めるようになり、約30年である。思えば、本学会の第3回学術集会事務局長を務めたことをはじめ、第23回学術集会長や数多くの多様な学会活動に参加させていただいた。そのような学会活動で知り合ったさまざまな会員の方々の有形無形の交流に支えられ、これまで教育研究者としての仕事を続けてこられたことに、感謝している。少し前に、ある海外の学会に参加したときに、その学会のプレジデントが「私たちは同じ学問を志す友人であり、兄弟であり、家族である」という挨拶をされていたことが印象深い言葉として、記憶に残っている。振り返ってみれば、私たちは、「学会」というコミュニティに属しながら、さまざまに育てていただいているのだと思う。これからの看護を担う若い世代の方々が看護学にコミットし、健やかに看護学を発展させていけるように、この学会に集う方々のニーズにあった活力ある学術コミュニティをつくることに務めて参りたい。

地域看護学は、多様な場で生活する、さまざまな健康レベルにある人々を対象とし、その生活を継続的・包括的にとらえ、人々やコミュニティと協働しながら効果的な看護を探究する実践科学である。また、地域看護実践には、その時代のニーズに応じて、常に進化し続ける特性がある。地域においては、実践を提供する職種・機関などの体制は一時的なものにすぎず、社会の動向やニーズに合わせて、地域看護実践は常に進化するものであると、とらえている。したがって、本学会には、①地域看護実践から新たな知を得ること、②地域看護実践に対して、新たな根拠や影響を与える知を産生することを繰り返しながら普遍的な学術基盤をつくり、看護学を発展させる重要な役割があると考えられる。

一方、教育機関に所属する会員が多い本学会では、看護基礎教育課程や保健師教育課程のあり方について大きく関心が寄せられ、長らく議論してきた背景がある。看護を担うのは「ひと」であるため、看護基礎教育のなかでどのような人材を育てるかは、看護の質を決める重要なポイントである。本学会では、人材育成の観点からも地域看護学をどう発展させていくのか、引き続き考えていきたい。

今期は、これまでの蓄積や強みを活かしながら、地域看護学の学術・研究活動を推進する。また、看護基礎教育における地域看護学の体系化のほか、広報活動の強化に努めることで、成熟期にある本学会のさらなる発展を目指す。本学会が活力ある学術コミュニティとして、一丸となって発展できるよう、会員のみなさまには、これまで以上にお力添えとご協力を賜りたくお願いするものである。